**当院にて全身麻酔手術をお受けになられたことがあり、**

**手術以前に間質性肺炎を指摘されたことがあった方へ**

当院では外科手術中の患者様を安全にかつ適切に麻酔管理することで、術後回復を最適化できる診療を行なっております。手術の内容や患者さんの全身状態など様々な要因が異なるなかで、それぞれの患者さんが出来るだけ早期に、良い状態で退院されるような理想的管理方法を見出すには継続的に実際の麻酔管理の調査検討が必要です。

【研究課題】

間質性肺炎併存症例において全身麻酔手術後に生じる急性増悪発症の術前リスク評価

※本研究は研究課題「周術期管理を理想的にする最適なパラメータの検討」の個別研究として実施されます。

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関　東京大学大学院医学系研究科

内科学専攻器官病態内科学講座・呼吸器内科学／外科学専攻・麻酔学講座

　研究責任者 細木敬祐・呼吸器内科学・特任臨床医

担当業務　データ収集・匿名化・データ解析

【研究期間】

　2018年5月10日〜2019年3月31日

【対象となる方】

2009年1月1日～2017年12月31日の間に当院にて、手術部で全身麻酔手術を受けられた、間質性肺炎を有する患者さん

※データ収集中

【研究の意義】

間質性肺炎を併存する患者さんは、全身麻酔の手術後に、時に「急性増悪」と呼ばれる急激な呼吸状態の悪化が起きることがあります。「間質性肺炎の急性増悪」という事態に陥ると、肺が膨らまなくなり、体内に酸素が取り込めなくなってしまいます。手術対象となったご病気の進行とは関係なく、短期間で生命の危険にさらされる恐れがあります。でも、全員に急性増悪が起きるわけではありません。もし、どのような方々に発生し易いかを事前に予測する方法が見つかれば、他の治療へ切り替えた方がよいか見究めるためのヒントとなりうるかもしれません。

【研究の目的】

慢性に経過する間質性肺炎を併存症としてもっている例の、全身麻酔後に発生する急性増悪に関する術前リスク因子を明らかにします。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。対象患者さんのご年齢、ほかの併存症、内服薬、過去のご病気、血液データ、画像データ（胸部X線写真、CT写真）、呼吸機能検査、各種臨床評価指標、および手術部位・時間など、診療中に得られたデータを収集して行います。過去の診療記録を元に行いますので、該当する患者さんの現在・未来の診療内容には全く影響を与えませんし、新たにご負担いただくこともありません。

【個人情報の保護】

　この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

収集されたデータは、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、呼吸器内科研究室において細木が、施錠された部屋の中で鍵のかかるロッカー、および個人情報管理担当者のみ使用できるパスワードロックをかけたパソコン）で厳重に保管します。ただし、必要な場合には、呼吸器内科研究室および麻酔科研究室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局までご連絡ください。2018年6月30日までにご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせて頂きます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等に発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

2018年5月

【問い合わせ先】

　　　 東京大学医学部附属病院呼吸器内科　　　　特任臨床医　細木敬祐

東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター　准教授　内田寛治

　　　　　　　同　　　　　　　　　　　　　　　助教　河村岳

住所：東京都文京区本郷７－３－１

電話：03-3815-5411 内36846　 FAX：03-3815-5954

Eメールでのお問い合わせ： hosokik-int@h.u-tokyo.ac.jp

uchidak-ane@h.u-tokyo.ac.jp

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　kawamurag-ane@h.u-tokyo.ac.jp